

防災とボランティアについて考えよう

新しい年を迎えました。皆さん、明けましておめでとうございます。元気に登校してくれた皆さんを見て、ホッとしました。

今日より3学期が始まります。40日程度の短い期間の学期ですが、3年生は進路を決定していく高校入試が本格的になったり、今年度の1年間の締めくくりを様々な場面で行っていく大切な時間が続きます。引き続き、寒い季節に負けず、健康に留意して頑張っていきましょう。

さて、明日11日(水)の5校時に『命の教育の週間』の取組の一つとして、防災教育講演会を実施します。神戸市の人と防災未来センターの연구원の方から、先進的に防災教育に取り組んでいる中学生の様子をお話いただき、「清瀬中学校は地域の学校としてどのような、防災や減災に取り組んでいったらよいのか」を考えていく時間にしていてもらいたいと思います。

1月17日は、『防災とボランティアの日』です。28年前の1995年1月17日5時46分、兵庫県の淡路島北部沖の明石海峡を震源として発生した阪神・淡路大震災に因んで創設されました。

皆さんは、大震災というと、2011年に起きた東日本大震災をすぐ思い出すことでしょうか。22,200人以上の方が亡くなったり、行方不明になったりしている大変な災害です。しかしその前にも、私たちが住む東京の街とよく似た大きな都市での都市型地震がありました。

阪神淡路大震災発生の際は、救助方法も技術も進んでいなかったこともあり、なかなか被災者への援護が進みませんでした。そのような中、学生を中心としたボランティア活動が沸き起こり、多くの人の救助や建物の復旧に力を尽くしたのです。全国から集まった人が、見ず知らずの人を助けました。28年前の日本では、あまり行われていないことでした。被害者の方々はどうなにかにありがたかったことでしょうか。このことがきっかけとなって、ボランティア活動は大いに認められることになりました。また、災害に備えることを忘れないようにしようということで、1月17日が「防災とボランティアの日」に定められたのです。

では、ボランティア活動とは、どのようなことを言うのでしょうか。本校でも清瀬中学校ボランティア隊として活動を広げてきていますが、先日、全国的にボランティア活動をしている方が次のようにお話をされていました。

- ①自分の意思で行う活動：他の人から強要されたり、義務でやったりすることではないこと
- ②お互いが支えあう活動：誰もが生き生き豊かに暮らせるように、「お互いさま」の気持ちで行う活動
- ③報酬をもらわない活動：活動に対してお金をもらわず、人との出会いや感動を得ることができていることを大切に活動
- ④よりよい社会を作っていくために知恵を出し合う活動：今、何が必要かを想像して知恵を出し合い、みんなで大きな力に集結していく活動

災害は繰り返されます。自然を前にしたとき、人間は弱い存在です。だからこそ小さな知恵を集めて大きな力にする工夫が必要です。災害から自分の命や大切な人を守るために、「日頃からの備え」と「災害が発生した時の冷静な判断と素早い行動」ができるせいとになりましょう。

また、1月15日～21日は「防災とボランティアの週間」です。これを機にボランティア活動にも積極的に参画していきましょう。